

# ハチ博士の ミツバチコラム

24



京都学園大学  
バイオ環境学部  
坂本文夫教授

## トチノキとマロニエ

山地に自生する重要な蜜源植物にトチノキがあります。が、湿気が多い谷あいの場所を好み、半球状の樹冠を形成する巨木として親しまれています。五月頃に数十個の白い小さな花が円錐花序を形成して咲き、大量の花蜜を出すために山蜜の筆頭上げられます。トチノキは透明感がある淡黄色で結晶しにくく、香り味とも特別のものです。

日本のトチノキの近縁種にセイヨウトチノキ(マロニエ)があり、ギリシャが原産ですが、ヨーロッパを始め各地で栽培されています。色々な交配種があり、花の色も白、ピンク、赤と華やかで街

路樹として好まれています。パリではシャンゼリゼ通りのマロニエ並木が特に有名ですが、空港からパリの市街地に向かう高速道路沿いや市内の多くの通りや公園に無数に植えられていて観光客の目を楽しませています。

五月の連休にパリの都市養蜂を視察する機会がありました。マロニエの花は公園やビルの屋上などで飼われているミツバチの重要な蜜源になっています。朝の散歩の途中でマロニエの並木に吸蜜に訪れているミツバチをたくさん見かけましたし、リュクサン

ブル公園ではマロニエの大木の周りをミツバチが乱舞していました。ミツバチとパリ市民の距離は随分近いのだと感じました。京都はパリと姉妹都市で、観光都市として共通点も多いと思います。京都でも蜜源になるトチノキやマロニエを増やして街中のミツバチ達を喜ばせてあげられたら良いのに、と思わずにはおられませんでした。



イラスト おおくぼひとみ さん